

「路傍」に思う

何気なく使っていた「路傍」という表現・・・

最近になって気付いたのだが、よそには、「路傍」というに相応しい雰囲気を持った道端は多くないのかも知れない。

.....

今、住んでいる多摩市の大抵の舗道には、車道と歩道の境界に設けられたガードレールの歩道脇に街路樹とサツキなどの植込みがあり、たまに蔦類が這う壁面もある。



その道端を歩くのが日常で、僕はそこを「路傍」と表現している。自ずとスマホのカメラを向けるのが癖のようになり楽しみとなった。



ところが、テレビなどで観る街や村などの道端には街路樹や植込みが案外と少なく、そこは「路傍」と云えるような風情を感じないことに気が付いた。

特にテレビニュースで観る、子供が交通事故に巻き込まれた街の通学路などには、車道と歩道の間には白線が引かれただけの、まるで無防備な様子に驚くことが多い。

何も、多摩市のことを自慢しているわけではない。

